

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の基本理念があり、フロアに掲げています。職員が理念を意識することで、利用者様の意思及び人格を尊重し、常に利用者様の立場に立ったサービスを提供できるように努めています。	開設当時から変わらない事業所の基本理念があり、各ユニットの通路部分の壁に掲示している。入職時の新人研修以外で、特に理念に関する研修はしない。しかし日々の支援の中で、職員一人ひとりの行動が理念を反映したものとなっているかどうかの確認を各自で行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの方による演奏会（年2回）行っています。コロナ禍により現在は控えています。状況が許せば園児たちとの交流会を再開したいと思います。	コロナ禍により、町内会等地域の行事はすべてが中止となり、散歩の際に近隣住民と挨拶する程度に留まっている。そうした中で地域のボランティアによるエレクトーン（6月）や琴（12月）の演奏会は継続して開催している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所独自の取り組みとして、町内会や民生委員の方たちに施設見学や施設の取り組み等についてお話できる機会があれば活用して認知症に関する理解を深めて頂けるようお願いしています。今後も機会があれば出かけていきたいと考えています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会の方たち及び家族様にも参加して頂き2ヶ月に一度定期的に開催し、サービスの利用状況や行事報告をおこなっています。また行政及び家族様の意見や要望を参考にさせて頂きサービスの向上に取り組んでいます。	運営推進会議は奇数月に開催している。会議には包括支援センター職員、町内会副会長、民生委員、利用者家族が出席している。事業所からの活動状況に対して活発な意見交換を行っている。会議録は職員間で回覧し、サービス向上に活かそうと取り組んでいる。	

5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>事業所が市役所及び社会福祉協議会の近くにあるため、電話だけでなく直接訪問し、相談及び意見を聞いています。今後も積極的に研修や勉強会に参加し地域に根差したサービスに取り組んでいきます。</p>	<p>担当課の職員とは電話や直接訪庁して相談や意見交換をしている。管理者は、泉州つむぐ会や地域密着型事業者連絡会に積極的に参加し、会議や研修を通じて市の担当者等との関係の構築を図っている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>外部及び内部研修で、制度の理解と拘束ゼロを周知徹底し実践しています。本来玄関は常に開錠するべきですが、利用者様の現況から安全確保及び防犯の為施錠している時もあります。</p>	<p>3か月に1回、虐待・拘束委員会を開催し勉強会を行っている。また、年に1回身体拘束に関する研修を行い理解を深めている。さらに職員間でも注意し合える環境づくりに努め、身体拘束のないケアを実践している。安全面を優先し、2階ユニット出入口のみ施錠している。帰宅願望のある利用者には職員と一緒に外出して、周辺を散歩して帰ってくる。</p>	
7		<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員が虐待に関する知識を正しく理解できるように、外部研修及び内部研修で定期的に学ぶ機会を設けています。また職員同士が話し合い、利用者様の情報を共有しケアをおこなうことで、虐待防止に努めています。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>H26年より泉佐野市も市民後見人講習を実施、職員も講習に参加し学ぶ機会を得ています。また得た知識は職員に内部研修等で伝達し、個々の必要性に応じた対応ができるようにしています。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約においては重要事項説明書・利用契約書等の説明をおこなっています。家族様からは質問や意向を聴き取り対応に努め、十分に理解・納得して頂いたうえで、契約を交わし入居後にトラブルのないよう努めています。</p>		

10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見・要望を気軽に出して頂けるように意見箱を玄関に設置しています。また職員ひとり一人が家族様の面会時に意見や要望を気軽に話して頂けるような雰囲気作りを心掛け、意見や要望を運営に反映出来るように努めています。</p>	<p>令和3年より従来の『グループホーム便り』を廃止し、1カ月の利用者ごとに生活状況を詳細に記録した『生活状況報告書』を毎月家族あてに送付している。これにより家族と話す機会も増えた。また、自己負担分を事業所で現金払いとしていることも家族と話すきっかけ作りになっている。聴き取った意見等は日報に記録し、職員の閲覧により情報を共有している。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>月1回職員会議を開催し、話しやすい環境を整え、意見交換やコミュニケーションを図っています。それ以外にも個別に面談し会議で話せなかった意見や要望を聞き、業務改善に反映できるよう努めています。</p>	<p>職員からの運営にかかわる要望や提案はよほどのことがない限り、ほぼすべてを採り入れてもらえる環境が整っている。また、社内で組織する虐待・身体拘束委員会の委員への推挙においても正社員、パートタイマーの区別はない。管理者を中心に、自由闊達な雰囲気づくりに取り組んでいる。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>就業環境の健全化については、常に職員の意欲や向上心が損なわれない様環境を整え、職員一人ひとりが、やりがいを感じて仕事に取り組めるよう努めています。また職員の勤務に関しては職員同士の理解もあり柔軟に対応しています。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員同士が率先してケアに関する知識や技術の交換を行ない、ケアに反映しやすい環境を整えています。また外部研修の他、内部研修を実施、職員の意識向上に努めています。また職員の力量を把握し、本人と話し合い無理のない範囲でトレーニングを行っています。</p>		

14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>泉佐野市事業所連絡会及び社会福祉協議会等の研修等を通してネットワークづくりと情報交換の場を活用し、更に他施設の訪問や見学等から学び取り入れ、サービスの質の向上に努めています。</p>		
<p><b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b></p>				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ゆっくりと時間を掛けて入居前の事前面談を行い、入居後も密にコミュニケーションを図りながら不安や心配事・意向を聴き取り、安心して生活できるよう工夫しています。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>生活歴や身体状況、現実困っている事等の情報を収集し本人及び家族様の不安や思いを汲み取り、話し合い安心できるように努めています。入居後は家族様に、本人の様子を定期的に報告し情報を共有しています。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>基本情報及び家族様からの情報を客観的に判断し、今何を必要としているかを見極めサービスに取り入れています。更に状態に応じてサービスを見直し、直ぐに対応できるように努めています。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>日々の生活の中で、話しやすい環境を整え、本人の個性を発揮できる場を提供しています。またコミュニケーションを密に図り、不安を持つことなく他者との交流を楽しみ、生活出来るように支援しています。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族様には季節ごとの行事に参加を呼び掛け、利用者様と楽しいひと時を過ごして頂けるよう工夫しています。また現況報告を定期的にお知らせし、家族様が安心して共に支えていく関係を築いています。</p>		

20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様の協力を得て買い物及びドライブ等は随時対応しています。また、家族様だけでなく、友人・知人の方々にも気軽に立ち寄って頂けるよう馴染みの関係が途切れないように支援しています。（コロナ禍にあり面会は現時点では家族のみに制限しています）	馴染みの場などへは家族が連れて行っている。利用者の友人や知人の来所については、家族に報告の上、利用者の居室において面会ができるように支援している。（現時点ではコロナ禍のためできていない。）	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活における心身の状態を把握し、利用者様同士が支え合いができるような環境を作り（フロアのテーブルの配置、席に着けば誰かと会話ができる）、共に楽しく暮らしていけるように職員が心掛け、支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も電話等で家族様の相談に応じ不安の解消に少しでも役立っていけるように努めています。今後も他施設への窓口紹介や必要書類の作成、及び他施設の相談員との連携を図り対応していきます。		

### III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の介護支援の中で利用者様の話される事柄を傾聴し、思いや日頃気にしている事柄を把握し介護に活かしています。また困難な場合は、声や表情を汲み取り安心できるように支援しています。	基本的には職員が聴き取り、聴き取った情報等を日報に記載し、職員間で閲覧することで共有している。困難な利用者には、表情や目の動き、声のトーンなどで把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	家族様や知人の方の面会時の会話の中で、利用者様の今まで知り得た以上の新しい情報を得ることも多く、家族様等と会話できる機会を設け、得た情報を活かし、その方らしい暮らしができるように努めています。		

25		<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>個々の残存機能を活かし、出来る事柄はなるべくご自分でおこなっていただき、出来ない事柄は、その時々々の心身の状態に応じて過剰支援にならない様、職員間での情報の共有を行なっています。</p>		
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>日々の心身状態を把握し、利用者様が負担に感じる事のないように定期的にモニタリングをおこない介護計画を作成しています。また必要に応じて医師及び訪問看護師等の意見を取り入れ、家族様及び職員間で話し合い、現状に即したケアに取り組んでいます。</p>	<p>介護計画は、短期目標は3か月ごとに、長期目標は6か月ごとに見直している。モニタリングは毎月実施している。家族には面会時や電話で意見や要望等を聴き取っている。聴き取った意見等は職員間で話し合い、医師等の意見とともに介護計画に反映している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>アセスメント及びモニタリングを繰り返し、心身の状態の変化や早期対応に努めています。また、日報・日誌及び職員間の申し送りノートを活用、情報を共有し現状の把握に努め状態に応じてプランの見直しをおこなっています。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>急な受診等については、利用者様の状態の変化や家族様の状況に応じて柔軟に対応できるように努めています。そのため面会時等を利用し家族様の現況に応じ協力体制を整え支援しています。</p>		
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>物品納入業者・理容など地域の人々との関わりを大切にしています。またボランティアの方を通してコミュニケーションを図り、豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援しています。</p>		

30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>利用者様及び家族様が希望の医療機関があればそこへ、なければ24時間対応出来る連携クリニックの医師が月2回の定期往診、適切な治療が受けられるように支援しています。また急変時は医師及び訪問による訪問、更に状態に応じ職員が同行適切な医療が受けられるように支援しています。</p>	<p>協力医療機関が2ヵ所あり、月2回ずつの訪問診療がある。従来からのかかりつけ医の往診も受け入れているが、訪問診療のメリットからかかりつけ医を協力医療機関に変更する利用者がほとんどである。その他、心療内科や訪問看護の訪問診療がある。他科への受診には緊急時等を除いて家族が対応している。受診結果は日報に記録し、家族と情報を共有するとともに、職員間でも情報共有を図っている。</p>	
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>看護師は常在していませんが、24時間対応可能な訪問看護との契約により週2回定期的に体調管理を行なっています。更に専門職として連携医療機関と急変時などは早急に対応して頂けるように、連携を諮っています。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院が必要になった時は病棟看護師との連携を諮り、より良い看護に繋がるように情報提供票を作成、情報を提供している。入院後も定期的に訪問し、医師・担当看護師及び相談員との情報交換・相談に努めています。</p>		

33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援          重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>契約時に重度化した場合や終末期については、家族様に事業所としての限界について、口頭及び文書で説明し同意を得ています。状態の変化等で医療行為が必要になった場合や継続が困難で重度化した状態である時は、医師及び看護師を交えて話し合い、家族様が安心して他のサービスが受けられるように取り組んでいます。家族様の及び本人の希望があればホームでの看取りも行っています。</p>	<p>利用開始時に事業所の方針について利用者や家族に同意を得ている。そして終末期が近づいた時に再度、エンドオブライフケア（事業所独自の看取り介護指針）により、家族等の細かな意向等を把握し、意向等に沿った対応を行っている。看取りの際は事業所管理者、かかりつけ医、訪問看護師等の関係者と家族で時間をかけて話し合っている。終末期には面会時間の制限をなくし、家族と寄り添えるよう支援している。これまでに20人程度の看取りの実績がある。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え          利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>内部研修や救命講習等を通して異常時の早期発見と状態に応じた対応ができるよう実践に取り組んでいます。消防署が近い為、直に連絡、早期対応が可能です。</p>		
35	13	<p>○災害対策          火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>自衛消防訓練は年2回、消防署職員参加指導のもとに日勤・夜間帯を想定し、実施しています。また内部研修等で災害を想定し対応について話し合い意識の向上に努めています。</p>	<p>消防避難訓練は、年2回全職員を対象に実施している。うち1回は消防署員立ち会いの下、夜間火災を想定したもの、また、火災以外の地震や台風災害を想定した避難訓練も行っている。防災マニュアルは各階に設置している。また、地域住民の避難場所として事業所建物が利用できる旨を市には報告している。発電機や飲料水や食品など概ね3日分の備蓄をしている。1年に1回飲料水や食品の点検を行っている。</p>	<p>事業所建物を地域被災者の避難場所として提供するなど、災害時において事業所の果たす役割は大きい。そのため、日頃から、地域住民を交えての消防避難訓練を行うなど、防災に対する機運を高めていくことが望ましい。</p>



IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>個人情報やプライバシー保護については職員の意識改革に取り組んでいます。さらに接遇についても職員一人ひとりが利用者様の人格を尊重し個性及び土地柄も踏まえ意識し言葉掛けや対応に努めています。</p>	<p>日頃のサービス提供時にも、職員間で注意をし合うなど、利用者の尊厳保持についての職員の意識を高めている。また、勉強会においても利用者の尊厳やプライバシー保護について職員間で話し合っている。居室に入る際の声掛けや呼び名等に配慮している。個人ファイルなどは事務所内の鍵付書庫に保管している。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>本人の性格及び生活習慣を把握し日々の生活会話や行動及び表情を通して本人の思いを汲み取り、介護支援が押し付けにならないように個々の意思・納得のもとに自己決定出来るように努めています。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>集団生活の中で全てにおいて希望に沿う事は難しいところもありますが、できる限り個々のペースに合わせてゆっくりとした生活を支援しています。また本人の希望があれば、手芸や買い物等の支援をおこなっています。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>本人の好みや意向に応じた服装で過ごして頂いています。またご自分で出来ない方に関しては、職員が持っておられる洋服の中から色の組み合わせ等を考え、おしゃれを楽しんで頂いています。</p>		

40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者様の嗜好を聞き、季節感のある食材をメニューに取り入れ献立を決めています。利用者様ひとり一人に合わせ食事を楽しんで食して頂けるように工夫しています。押しつけにならない様、無理のない範囲でのお手伝いもお願いしています。</p>	<p>管理者が1週間ごとに献立を作成し、食材購入をしている。ミキサー食、きざみ食など利用者の状況に応じた食べやすいものに加工し、季節を意識した献立を心掛けている。また、節分やひな祭りでの行事食やバイキング（菓子・寿司等）を楽しんだり、食器をワンプレートに盛り付けたり、弁当形式にしたりと食事の変化を楽しめるように努めている。利用者は職員と一緒に食事を楽しんでいる。誕生日には、その利用者が好きな料理を提供している。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>毎日、食事・水分チェック及び毎月の体重測定をおこない記録してます。また、個々に応じた食事形態や量を提供しています。更に糖尿病の利用者様もおられ食事コントロールが必要なため、栄養のバランスにも配慮しています。</p>	/	/
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>誤嚥性肺炎の予防に口腔ケアが不可欠と考え、毎食後口腔ケアと歯磨きを欠かさず支援しています。義歯の方は夕食後義歯を預かり洗浄剤を使用し、洗浄をおこない清潔に努めています。毎週火曜日は、訪問歯科により口腔ケア及び治療を実施しています。</p>	/	/
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄チェックを行い、個々の排泄パターンの把握に努め、早めのトイレ誘導を心掛けています。またご自分で出来る行為はさりげない支援にとどめ、自主性を重んじるようにしています。</p>	<p>排泄記録により、各利用者の排泄パターンを把握し、声掛けにも注意を払いながらトイレ誘導をしている。拒否した利用者には無理強いはせず、30分ほど時間をずらし再度声掛けを行っている。排泄の自立を促すため、夜間もトイレ誘導を行うが、居室のポータブルトイレを使用する利用者もいる。</p>	

44	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>排便チェックを行ない、食材やメニューを工夫し、更にリハビリ体操等を取り入れ少しでも腸運動の活性化に努め便秘予防に取り組んでいます。便秘症の利用者様は医師に相談、対応しています。</p>		
45	<p>17</p> <p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>本人の体調や希望を考慮し週2～3回程度の入浴を目安としています。更に入浴日以外でも必要に応じてシャワー浴等を実施し清潔保持に努めています。一人入浴を支援しプライバシーへの配慮をおこない支援しています。また冬至にゆず風呂、端午の節句には菖蒲湯と肌で季節を感じていただいています。</p>	<p>基本的には週2～3回程度、午後の時間帯に入浴しているが、必要に応じてシャワー浴を行ったり、希望により毎日の入浴でも対応している。浴槽の湯は常時かけ流しにしている、利用者ごとの入れ替えはしていない。また、菖蒲湯、ゆず湯等季節感を味わえるように配慮している。入浴拒否のある利用者には、声掛けする職員や時間を変えるなどで対応をしている。</p>	
46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>個々のペースに合わせて、一日の生活リズムを崩さないよう配慮し、生活を支援しています。居室の環境整備及び精神的安定に努め安眠できるよう支援しています。尚毎日の体調を把握し休息時間を設けています。</p>		
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>調剤薬局薬剤師による服薬管理をお願いし、薬についての疑問や気になることは直ぐに聞くことができる体制を整えています。また薬リストは副作用・用法等直ぐに確認できるようファイルを作成しています。更に誤薬のないように名前を声に出し、2人で確認し、飲み込みまでの服薬確認を行っています。</p>		

48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>コミュニケーションを通して、個々の意欲及び持っている力が発揮できるように、生活の活性化にホーム全体で取り組んでいる。また全ての方ではありませんが、洗濯ものや植木のお世話等の気分転換を図って頂いています。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>自然環境に恵まれた立地条件を活かし、お散歩などを支援しています。年間行事で初詣・お花見と地域への外出支援を行っています。家族の希望で買い物やドライブを兼ねた外食等に出かけています。</p>	<p>コロナ禍により、外出を控えているが、週に1回は近くのダンバラ公園までの散歩を楽しんでいる。また、春と秋には散歩も兼ねて泉の森ホールまで花見に出かけたり、家族と一緒に買い物やドライブ、外食に出かけている。天気の良い日は、職員と一緒に敷地内の花壇で花摘みをすることもある。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>基本的には金銭は預かっていません。家族との話し合いで多少の金額を所持されておられる方や事務所で管理している方もおられます。希望に応じ、ショッピングを支援したり、職員が買い物をすることもあります。随時、利用者様と残高を確認し家族様にも報告しています。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>利用者様の希望があれば職員が手伝い、電話を掛けお話をさせて頂いています。また、季節毎に年賀状や暑中見舞い等を家族様や知人を書いて頂くなど支援しています。</p>		

52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有空間は常に生理整頓に努めています。壁やテーブルには行事で写した写真や季節のお花を飾り、心が和むスペース作りを工夫しています。散歩時には野花を摘んで、花瓶に活け楽しんで頂いています。</p>	<p>食堂兼居間は、明るく開放的な空間となるように大きな窓を設置している。壁や廊下には、季節感のある利用者と職員の手作りの作品が飾っており、廊下には事業所での行事の写真飾っている。テーブルの配置も利用者同士の相性等を考慮し、随時変更をしている。清潔な空間を保てるよう、定期的に換気を行っている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ひとりになれる空間作りに配慮し、外の景色や、お互いの居室に行き来出来るようにソファやテーブル・椅子の配置を工夫し、ゆっくりと過ごせるように努めています。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>思い出の物品の持ちこみ及び家族様の写真やお花を飾ったりして、心が和む居室作りを工夫しています。更に個々にテレビやラジオを見聴きされ自由に過ごして頂けるようにしています。</p>	<p>エアコン、クローゼット、ベッドは事業所が備え付けている。利用者が持ち込む物品に特に制限はなく、テレビ、ラジオ、箆笥、机等、利用者は使い慣れたものを持ち込んでいる。家族の写真や趣味の作品等を飾っている利用者もいる。居室内の清掃や室温管理は職員が行っている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>安全面に配慮し、フロア内やトイレ・浴室に手すりを設置しています。利用者様の目線に立つて掲示物を表示し、安全に行動できる環境整備に努め、少しでも自立した生活ができるよう支援しています。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない